

第 1 1 回武蔵野市における地上部街路に関する話し合いの会 ご意見カード

・ ご意見カード記入者 11 名（内公表希望 7 名）

整理番号	ご意見
1	<ul style="list-style-type: none"> ・小口氏は古谷氏の発言の内容を取り違えています。小口氏の話が長いというのが主旨でなく、小口氏の長さ比べ委員の発言時間が短いという比較で言ったのであって、発言時間が長いというところだけを固執していましたが、おかしいです。 ・議事録、要旨は差しかえないというが、正しくなければ差しかえるべきだと思う。 ・地域は困っていない。きちんとすべき。長びいているのは国・都の誠意がみられないことです。 ・小口氏は人の話しの取り違が多い。 ・司会者は細かい事を話してくださいというが、大きいことを話さずに細かい事を話せますか？司会者は住民の側に「ちゃんとしようよ」というが、都・国に「ちゃんとしようよ」と言って下さい。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局は都でなく、公正中立な立場の第 3 者が担当すべきである。そうでなければ偏った運営が避けられない。（よい例は淀橋水系流域委員会。外部のコンサル。）武蔵野市が担当することも一案。 ・事務局は両者（都と住民）と話し合っ、次回の会議の運営について決めるようにして下さい。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの会の成立の前提が都と住民との間で異なっている。そのような話し合いの会は成立しないのではないか。 ・「外環の 2」の都市計画案は廃棄されるべきである。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・増税して環境破壊の道路建設を強行することは許されない。 ・国、東京都の予算は誰のために使われるのか、市民の血税が住民意志に反して使われることをこれ以上放置してよいのか。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・「廃止」を項目に入れ、その方向で議論を。それが武蔵野市民の大勢の考えです。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・司会者は何度も「だったらこの会はやめた方がよい」と口にされましたが、その発言は如何なものでしょうか？何があろうと、そのような発言は慎んで頂きたい。聴いていて不快です。（頑張ってやって頂いているのは認めますが）
7	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都はスリ抜け、スリカエのテクニックを駆使して、外環-2 の建設を強行しようという意図で会を主催しているために会議が紛糾してまとまらない。この上は会議の状況を正確にとりまとめて「市民代表の構成員全員が建設に反対で道路をつくれる状況でない」という報告書を取りまとめて、会をしめくくるしかない。

	<ul style="list-style-type: none"> 古谷先生の説明に関連して一言。昭和 43 年外環の現地を視察した保利建設大臣（自民党）は既成の住宅地にあとから道路が割り込むのは都市計画として逆だ！と役人を叱りつけた経緯がある。
8	<ul style="list-style-type: none"> 司会の方々はお疲れ様です。議事録についてはこれまでもいろいろクレームがつけられて時間をとられているのだから、事務局は極力構成員とコンタクトをとって、本番でのスムーズな了承に持っていくべき。また発言本人だけの修正要求にのみ応じるというのも、正確な議事録にはなり得ない。発言本人は気がつかない部分を他の構成員が指摘して正確なものになる。 小口氏は事務局なのか構成員なのか、都の職員として出ているなら事務局になった方がいいのではないかと。他の構成員の要求に応じて、様々なデータを出すというようにしたらどうか。そうしないと、常に小口対他の構成員という会になってしまう。 古谷さんの説明は大変説得力がありました。 住民から意見を聞く会を早く開催してほしい。
9	<ul style="list-style-type: none"> 第 11 回の「地上部街路に関する話し合いの会」が始まって間もなくの時、司会者は構成員が挙手しているのに無視して、次第に従って、早く議事を進めようとしている。司会者の役目は会を早く進める事ではなく、話し合いを盛りあげ、話し合いを深めるのを助ける事ではないのか？何かあせっているように見えるが、何をそう急いでいるのか？
10	<ul style="list-style-type: none"> 国交省、東京外かく環状国道事務所の職員 2 名が“構成員”として会議に参加している。しかしながら、一切の発言を行わない。“構成員”として参加させる意味がない。 本来、いわゆる“外環の 2”は、外環本線起源の話である。それにもかかわらず、発言せず参加はするというあり方は“会議体の構成員”としては不適切であり、この会議の根本的な設置方針、あり方に大きな疑問が生じる。
11	<ul style="list-style-type: none"> 都のやり方をよく見聞きしたぞ！当分すすまないね。 こういう状況になっているとは（都からの説明会）を第 3 小できて以来の参加なのでびっくりした。どうして構成員がゴネているかという、私の考えでは、構成員のいうとおり、「話し合い」になっていないからだと思う。今夜参加したのは時間があつたからだが、どうせ「都からの説明会」だろうという気持ちで参加した。どうして構成員の態度がこんなになったのか。住民との話し合いをしてこなかったから。都は地上部をとおそうとしているのは知っている。すでに決まっていることをして、60 分もデータの説明をする意義は住民は何ももっていない。 きっと、こちら住民側からも大震災を経機に道路の予算を復興にまわした方がいい、震災があつたからトンネルを掘ることはこわいと意見が出ていると思う。都側はなしくずしに道路を仕上げようとしている。両方まるでかみ合わない。これだけの人が住んでいるのを、今さら、道路をとおしてたちのきさせら

れるか！傍聴者は構成員にプラスされる意見です。

- 早々とたちのいた人もいるかもしれない。アパートの跡地はそのまま空地になっている。これからたちのかされる住家は 1700 棟？とかきいたが、それだけではすまないでしょう。茶番劇をするな。構成員ももう手がなから議事録のことを細々言っているのでしょう。傍聴席はたぶんみな地上部反対です。
- 本当にこんな状態になっているとはびっくり。来てよかった。構成員の人たち、頑張ってください。構成員の人たちは前から感じていたけれど、理路整然としているでしょ！地元根ざした、自分たちの生活に根ざした意見だから、つじつまがあっているでしょ！
- 河田さんのいうとおり、都側の人たちは自分の生活じゃないから平気な顔でも言える。河田さんがまさに言った「都の人たち、頭をやわらかくして、自分の責任だと思わなくていいですよ」
- 構成員の人たちはいつも穏やかに都の人と対していて尊敬する。第 3 小の時から思っているが、外環担当者は異動してくんではよ。住民は環七の環境の悪さから引越してきた人もいて、これからもずっと住んでいくんですよ。すりあわないのはあたり前。廃止論を前面にすすめる。
- 構成員からの発言時間が確保されていたとは知らなかったが、古谷教授の講義の口ぶりはややききにくい。質問：これは何のための講義ですか。誰にみせるためですか。都の人はすでに知ってるんでしょう。結論：ポンチ絵はほとんどない。
- 最後に濱本さんの質問にここで答えないって本当におかしいよ。